第三講　主語把握方法⑵（『古今著聞集』　能は歌詠み）

〈主語把握方法〉

④　敬語を使う（地の文でのルール）

●**尊敬語**を使用しているとき
　主語は（作者にとって）「　　　　　　」

●**最高敬語**を使用しているとき
　主語は「　　　　　　」
　（天皇・中宮（ちゅうぐう）・東宮（とうぐう）などの**皇族**や、左大臣などの**権力者**）

※一度敬意を払った人物には、（基本的には）敬意を払い続ける。
まれに使用したり使用しなかったりする場合（＝敬語の不一致）もあるので注意。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈読解練習〉

花園の左大臣の家に、初めて参りたりける侍の、(注)名簿のはしがきに、「能は歌詠み」と書きたりけり。大臣、秋の初めに南殿に出でて、(注)はたおりの鳴くを愛しておはしましけるに、暮れければ、「下格子に人参れ。」と仰せられけるに、「(注)蔵人の五位たがひて、人も候はぬ。」と申して、この侍参りたるに、「ただ、さらば、汝下ろせ。」と仰せられければ、(注)参りたるに、…

（注）名簿…官位、姓名、月日などを記入した名札。弟子や家人として入門したり、出仕したりする時、提出する。
はたおり…秋に鳴く虫。今のキリギリスかという。
蔵人の五位…六位の蔵人が五位に昇ったが、五位の蔵人に欠員がないため、昇殿を許されない人。ここでは、「大臣の側近としてそういう者が仕えていた」ということと考えられる。
参りたるに…ここでは「御格子参りたるに」の意味。「御格子参る」は、貴人の部屋の格子を上げること、もしくは、下げること。ここでは「下ろす」。

★**「会話文」の主語**（＝会話主）

⬇ **「　　」の直後**の「　　」の有無を確認する。ある場合は、種類を確認すること。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★　Aが「　　」～ ｛を／に／ば｝、～

「汝は歌詠みな。」とありければ、かしこまりて御格子下ろしさして候ふに、「このはたおりをば聞くや。一首つかうまつれ。」と仰せられければ、「青柳の」と、初めの句を申し出だしたるを、候ひける女房たち、折に合はずと思ひたりげにて、笑ひ出だしたりければ、「ものを聞き果てずして笑ふやうやある。」と仰せられて、「とくつかうまつれ。」とありければ、

　青柳のみどりの糸をくりおきて夏へて秋ははたおりぞ鳴く

と詠みたりければ、大臣、感じ給ひて、萩織りたる御直垂を、押し出だして賜はせけり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「会話文」の中の主語

●**尊敬語**を使用⬇「　　　」

●**命令形**を使用⬇「　　　」

●それ以外⬇「　　　」

＊「言わなくてもわかる第三者」の場合もあるので注意！

★「青柳のみどりの糸をくりおきて夏へて秋ははたおりぞ鳴く」

●「　　」＝通常「　　」音で特定の語を導く。訳さない。

●「　　」＝一つの語（音）に二つ以上の意味が含まれている技法。

●「　　」＝歌の中の中心的な名詞に関連の深い語を詠み込む技法。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（注）寛平の歌合に、「初（はつ）（注）雁（かり）」を、（注）友則、

春霞かすみていにしかりがねは今ぞ鳴くなる秋霧の上に

と詠める、左方にてありけるに、五文字を詠みたりける時、右方の人、声々に笑ひけり。さて次の句に、「かすみていにし」と言ひけるにこそ音もせずなりにけれ。同じことにや。

（『古今著聞集』）

（注）寛平の歌合…宇多天皇在位中の寛平年間（八八九〜八九八）に開催された歌合。
雁…鳥「ガン」の異称。ガンは渡り鳥で、秋に日本に飛来し越冬する。春に北方に帰る鳥。
友則…紀友則。『古今和歌集』の撰者の一人。生没年未詳。

●「歌合」とは?

左右二つの組に分けて、決められた題を詠んだ歌を一首ずつ出して優劣を競う遊び。
判者（はんじゃ）（＝審判）が「勝・負・持（＝引き分け）」を判定して勝負を競う。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　復習問題

① 次の中から、発話者が「天皇」であると考えられるものを一つ選べ。

ア 「～」と言ふ。
イ 「～」と申す。
ウ 「～」と仰す。
エ 「～」と奏す。

② 「いとかくつれづれにながめたまふらむを」は、宮が女に対して発した言葉であるが、この言葉の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア このように二人で連れ立っていろいろなところを見て回りたいものですねえ。
イ このように二人寄り添いながらこれからのんびりと過ごしていきたいものですねえ。
ウ このようにひどく所在なくもの思いをしてお暮らしになっているのでしょうねえ。
エ このように特にすることがない時には、あなたをぼんやり見ていたいものですねえ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「うしみつ」は「丑三つ」と「憂し見つ」の、「ね」は「子」と「寝」の両方の意味を表している。このような和歌の技巧を何というか。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　縁語　イ　掛詞　ウ　序詞　エ　対句　オ　枕詞

④「忘れてもまた手にとらじあづさ弓もとの家路をひき離れては」の歌の表現について述べた次の文の［　］に入る語を後の中から選べ。

「あづさ弓」は、万葉集の時代に流行した［　］と呼ばれるもので、後の「もと」「ひき（引き）」を導く働きをしている。

ア　歌枕　イ　序詞　ウ　本歌取り
エ　枕詞　オ　比喩

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講

〈現代語訳〉

花園の左大臣の家に、初めて参上した侍が、名簿の端に書き添える言葉に、「得意なことは歌を詠むこと」と書いた。大臣が、秋の初めに南殿に出て、はたおりの鳴く声を楽しんでいらっしゃったときに、日が暮れたので、「格子を下ろしに、誰か参れ。」とおっしゃったところ、「蔵人の五位が居合わせないで、お前が下ろせ。」とおっしゃったので、（侍が）御格子を下ろし申し上げていたところ、（大臣が）「かまわずに、それならば、お前が下ろせ。」とおっしゃったので、（私の他に）人がお控えしておりません。」と申し上げて、この侍が参上したので、（大臣が）「かまわずに、それならば、お前が下ろせ。」とおっしゃったので、（侍が）御格子を下ろし申し上げていたところ、（大臣が）「お前は歌詠みであったな。」とおっしゃったので、（侍は）恐縮して御格子を下ろすのを途中でやめてそばにお控えしていたところ、（大臣が）「このはたおり（の鳴き声）を聞いているか。（この虫の音を題材に）一首詠み申せ。」とおっしゃったので、（侍は）「青柳の」と、最初の句を申し上げたところ、（その場に）お仕えしていた女房たちが、季節に合わないと思った様子で、笑い出したので、（大臣は）「最後まで物を聞かずに笑うことがあるか、いや、あってはならない。」とおっしゃって、「早く詠み申せ。」と命じられたので、

青柳の…＝青い柳の緑色の糸をたぐってためておき、夏の間に糸を機械にかけて、秋には機織りで織るという、秋の今はたおりが鳴いているよ。

と詠んだので、大臣は、感動なさって、萩の図柄が織ってある直垂を、（御簾の下から）押し出してお与えになった。

寛平の歌合のときに、「初雁」を（題材にして歌を詠むときに）、友則が、

春霞…＝春霞の中にかすんで飛んでいってしまった雁は、今、秋の霧の上で鳴いているようだ。

と詠んだとき、（友則は）左方であったが、（最初の）五文字を詠み上げた時に、右方の人が、それぞれ声に出して笑った。それから（友則が）次の句に、「かすみていにし」と言ったときにその笑い声もなくなり静かになった。（この侍の歌詠みの話は、この話と）同じことであろうか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講　解答解説

〔解説〕

① 天皇が発言しているのであれば、「」の後ろが尊敬語になっているはず。尊敬語はウ「仰す」のみ。よって、正解はウ。ちなみに、エの「奏す」は、「天皇（上皇）に申し上げる」という意味の謙譲語。

② 動詞「ながむ」に、尊敬の補助動詞「たまふ」がついていることから、この動作の主語は、会話の聞き手である「あなた」である。相手が主語になっている解釈はウのみ。よって、正解はウ。

③ 一つの語に二つ以上の意味を含ませる技巧は「掛詞」である。よって、正解はイ。

④ 「導く働き」とあり、「あづさ弓」は五音なので「枕詞」である。よって、正解はエ。

〔解答〕

①　ウ　　②　ウ　　③　イ　　④　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。